



# OPEN CARE CHALLENGE2025

## 成果報告

公益財団法人 INCLUSION JAPAN

# INCLUSIONJAPAN | 福祉留学 for BUSINESS/学生オンラインコミュニティ

福祉をもっと身近に、もっと気軽な体験で、全ての人の「福祉リテラシー」向上への取り組み

## 企業概要・参画した背景

- ・「福祉留学」で、福祉の魅力と地域の魅力をカジュアルに体験できる仕組みを創出。
  - ・「2030年問題」は、当事者と会社と国だけでどうにかできる問題ではない！！
    - ・介護離職 9兆円の経済損失
    - ・将来を諦めるヤングケアラー
    - ・1.8人で1人を支える人口構成
- これらの課題を解決すべく、  
「福祉留学」で社会全体の  
「福祉リテラシー」の向上を！



## 取組概要

- 1) 「学生団体 hito to(ヒトト)」の立ち上げ、オフラインとオンライン交流会を開催。  
「福祉をもっと身近に」をテーマに留学生と、まだ未体験の留学関心者が集まって、留学での体験や魅力を交流し、身近なことから福祉があることを共有している。
- 2) 「福祉留学forBUSINESS」を立ち上げ、企業が直面する下記の課題に取り組むべく、学びの機会とした。
  - ①開発ギャップ：当事者不在の設計で機能性のズレ
  - ②顧客ギャップ：高齢者・障害者のニーズ分析のズレ
  - ③人材ギャップ：家族介護者に対する認識のズレ

# INCLUSIONJAPAN | メンタリング・トライアルの結果

1) 学生団体「hito to」は、9月から毎月のオンライン交流会とオフラインイベントを開催！

## メンタリング・トライアル概要

学生に興味を持ってもらう運営の方法などをアドバイス頂き、発足と拡大に繋がりました。

関西の学生が集まる「共創EXPO2025」に参加し、「福祉留学」の取り組みを紹介した。多くの学生に関心をもっていただいたことで、学生団体の発足に繋がった。

現在は、学生が主体的にイベントの企画・運営などを行う組織に成長しつつあります。

## 検証結果

福祉留学イベントの参加者

	学生	社会人
大阪駅周辺	6名	13名
名城大学	11名	9名

参加者は学生だけではなく、社会人も参加し、学生は、世代間交流を通じて大きな刺激と気づきがあった。また、オフラインの方が身近に感じられて、留学に行ってみようという感想が、より高まった。

# INCLUSIONJAPAN | メンタリング・トライアルの結果

2) 企業向けの「福利留学」は、異業種が現場体験から当事者視点を獲得していただいた！

## メンタリング・トライアル概要

企業のニーズに合わせた募集方法や留学内容をアドバイス頂き、短期的な現場体験や数日に分散させた留学方法などを、実施してみた。

単なる講習や見学、ボランティア体験で終わらせず、自社の「事業課題」や「専門スキル」を現場に接続する「ビジネス視点」を強化。

【一級建築士】 ⇒就労移行支援事業

【飲食業 店長】 ⇒有料老人ホーム

【パチンコ機器メーカー】 ⇒デイサービス

## 検証結果

【建築】 数値上のバリアフリーを超え、「心理的な安心感」を設計する視点を獲得。

⇒インクルーシブな空間設計強化獲得となった

【飲食】 嚥下配慮やユニバーサル接客による、シニア層への新サービス着想。

⇒嚥下配慮の現場配慮を体感し、食べる障壁を理解につながった

【メーカー】 現場のペインポイントを起点とした、実効性の高い製品改良案の創出。

⇒改良付帯サービスの発想につながった

# INCLUSIONJAPAN | 今後の展望/気付き

- 全ての人の「福祉リテラシー」を高めることが、社会を取り巻く諸課題を解決します



• 「福祉」は福祉関係専門職だけの仕事ではありません。人が**幸せ**に生活できるようになるための様々な仕事や取り組みがすべて「福祉」です。

• 「**福祉リテラシー**」という言葉が社会に浸透させ、社会全体として福祉への理解の必要性を促進させます。そのためにも、「福祉留学」が拡大し、福祉の現場を実体験する人を増やす必要があります。

• 「**日本をまあるく、あったかく。**」

「福祉留学」が世代間、職業間を超えた人材の育成につながり、福祉先進国日本を支える持続可能な企業成長の一端を担う活動として認知していただけるような事業へ実装していきます。



OPEN CARE  
CHALLENGE

オープンケア チャレンジ

powered by OPEN CARE PROJECT